

【数字を読み解く】 マイナス 20.3%

～ J R 大分駅周辺の人口減少率（1 月下旬） 感染急拡大、景気影響を注視～
<2022/2/4 大分合同新聞掲載>

数字は、N T T ドコモが公表する「モバイル空間統計」にある、1 月下旬（21 日～31 日）の J R 大分駅周辺の人口減少率（日次単純平均）だ。本統計は、同社の携帯電話ネットワークの仕組みを使用して作成される人口統計で、新型コロナウイルスの拡大を受け、2020 年 4 月 18 日以降、全国主要都市の午後 3 時時点の人口変化率が毎日公表されている。

大分県では、大分市中心部の 500 ㎡四方（J R 大分駅府内中央口、セントポルタ中央町、県庁、金池幼稚園を結んだ区画内）が対象だ。同エリアの人口をみると、新規感染者数がゼロで推移していた昨年 12 月中は感染症拡大前比マイナス 7.8%となっており、小売店などからは「衣料品や靴、バッグ、マフラーなどの服飾雑貨の販売が好調」との声が聞かれていた。もっとも、1 月の 3 連休（8～10 日）終了後は、当県を含め全国的に感染者数が急拡大していることから、同エリアの人口は減少。直近 1 月下旬には感染症拡大前比マイナス 20.3%となった。

大分県全体でも、衣料品などを販売する専門店や飲食店、観光・宿泊施設からは、客数の減少を指摘する声が幅広く聞かれるほか、「密」を回避するため集客イベントを中止する動きもみられる。個人消費や観光を中心に、感染症再拡大に伴う下押し圧力が強まっており、不確実性が高い状況にある。先行きにかけて感染症が一段と拡大したり、その期間が長期化したりする場合には、景気全体に与える影響も大きくなるとみられる。

今後も、国内外の新型コロナウイルスの動向と、それが家計の消費マインドや企業の収益動向・経営行動に与える影響などを注意深くみていきたい。（日本銀行大分支店）